

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・（整数）÷（整数）の意味や計算の仕方について理解している。

・（小数）×（整数）の計算の仕方について理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・0.1を単位にして，0.6は0.1が6個と見る見方を学習している。

教材研究ノート№4-A-11

≪学習問題≫

0.6ℓのジュースを3人で同じように分けました。

1人分は何ℓになるでしょう。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し: 小数のわり算はどのように計算したらよいか。

→　かけ算の時と同じように，0.1をもとに考えればよい。

②学習課題: 0.6÷3の計算の仕方を，0.1のいくつ分をもとに考えよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究: 計算方法を，線分図等を用いて説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの方法にも共通していることはなんだろう？」

→「どれも0.1をもとに，6÷3を利用して計算している。」

④共同追究後半（思考を深める）

「6÷3 を先に計算してもよいのか？」

→「0.6÷3は，0.1が（6÷3）個だからよい。」

「かけ算のとき，0.2×4＝0.1×（2×4）として計算できた。わり算も同じように計算できる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・小数のわり算も，0.1を基準にすると，1を基準にした整数の

わり算と同じように考えることができる。

・かけ算と同じように，0.1を単位として考えたらできた。

⑥定着･活用問題

(1)次の計算をしましょう。

① 0.4÷2　　② 0.8÷4　　③ 1.5÷3

(2)2.4÷6の計算の方法を説明しましょう。

2.4は・・・

2.4÷6は・・・



＜本時の展開に当たっての留意点＞

・0.6ℓ入りのペットボトルと紙コップを用意しておき，具体物で　　　の操作活動も大切に考えたい。それを単に答えの確認だけでなく，この計算の意味を理解することにも使いたい。

・単元を通して，機械的な操作だけの習得にならないよう，式と生活場面を結び付けたり，小数の仕組みや計算のきまりをもとに考えたりすることができるようにすることを大切にしたい。

【板書計画】